

イタリア語

パ ッ サ ポ ル ト

それはイタリアへの *passaporto* (パスポート)

1. 担当教員の紹介

イタリア語 I・II

会話・作文担当：エマヌエレ・コンティ (専門はイタリア・スペイン語教育)

文法・読解担当：佐藤りえこ (専門はラテン・ギリシア文学)

イタリア語 III・IV エマヌエレ・コンティ



写真：Stefan Bauer, <http://www.ferras.at>

2. まず、目的地を決めましょう

***イタリアにはいろいろな顔があります。**

あなたが「これっていいかも!」「おもしろそう!」と感じるイタリアがきっとあるはずです。

ファッション：イタリアには Gucci や Armani、Dolce&Gabbana など世界的に有名なファッションメーカーがあり、日本でも人気を博しています。イタリア人は友人宅に招待されると、いったん帰宅し着替え、おしゃれをしてから出かけます。このような日常的な習慣からも、そのファッション意識の高さをうかがうことができます。

美術：博物館や美術館、歴史的なモニュメントが数多くあります。ミケランジェロ、ボッティチェリなど、ルネサンス期の有名な画家はもちろん、路上で、あるいはオンラインで作品を配信している現役のアーティストだって負けてはいません。

音楽：オペラやカンツォーネ、クラシックそれに映画音楽界でイタリアは多数の作曲家や演奏家を輩出しています。音楽芸術のみならず恋に情熱的だと言われるこの国では好きな女性に向かって男性がセレナータ (恋の歌) を歌うことでも有名です。現在でも結婚式の前夜、婚約者の住む家のベランダの下に立って歌う習慣が残っている地域があります。

食文化：イタリア料理はパスタ、ピザ、ジェラートだけだとは思っていませんか? 生ハムやサラミの Antipasto (前菜) に続く Primo Piatto (最初の料理) ではパスタカリゾットを、肉、魚料理の Secondo Piatto (メインディッシュ)、それにデザート of Dolce というコース料理もあります。それぞれ料理には地域的な特色があり、その土地でしか味わえない郷土料理も健在です。本場の味をぜひ現地で賞味したいものです。

歴史的遺産：古代ローマ帝国の中心地であった歴史を持つローマは、街全体が文化遺跡として保存されています。ユネスコの世界遺産はイタリア全土にあり、実際に訪れることで教科書からは学べない歴史的な感動を得ることができます。

歴史への貢献：航海時代、それは多くのイタリア人航海士が活躍した時代です。アメリカ大陸を発見したのもイタリア人です。歴史の教科書ではコロンブス (ジェノヴァ出身) はスペイン人となっていることがありますが、スペインの女王から経済的支援を受けていた

ゆえの誤解です。アメリカという大陸名も、イタリア人のアメリゴ・ベスピッチに由来しています。

科学：イタリア人科学者と言えども、ガリレオ・ガリレイの名前が挙げられますが、「モナリザ」を描いたダ・ヴィンチが工学・医学（解剖学）の分野でも活躍したことは意外に知られていません。またアラビア数字の優位性を説いたフィボナッチ、近代会計学の父であるパチョーリなどの数学者の偉業を知っている人は少ないのではないのでしょうか。

最古の総合大学：ヨーロッパで最初に総合大学として大学教育を開始したのがボローニャ大学です。現在でイタリア国内で第二位の規模を誇るこの大学は、外国人へのイタリア語教育で高い実績があるため、世界中から多くの留学生が学びに来ています。

スポーツ：国民的スポーツとしてサッカーが盛んで、セリエ^Aと言えど誰でも知っているイタリアのリーグです。ワールド・カップで何度も優勝しており日本人のサッカー選手も憧れる登竜門的存在です。また日本ではイメージが薄いですがイタリアはバレーボールも強い国です。

3. それでは パスポート *passaporto*（パスポート＝イタリア語）を準備しましょう

*** 行き先が決まれば、次はパスポート。イタリア語について少しだけ見ておきましょう。**

イタリア語を母語とする話者は 6,100 万人で（日本の人口の約半分）です。イタリア語はイタリアとバチカン市国、サンマリノ共和国、スイスの一部の州の公用語です。さらに、イタリア人は移民として世界各国に散らばっているためイタリア語が話されている地域は**広範囲**にわたっています。また歴史的にはローマ帝国の共通語であったラテン語から派生した言語で、同じようにラテン語から派生したフランス語やスペイン語、ポルトガル語などとイタリア語は「兄弟関係」にあります。

イタリア語は**基本的にローマ字読み**なので発音しやすいです。一方で、文法は日本語とはかなり異なっているため初学者には理解しにくいものがあります。しかしイタリア人の多くは、たとえ相手が単語を二、三個しか知らなくても会話をあきらめたりしません。よくイタリア人は両手を縛られると話せなくなると言われます。これは過剰なまでにジェスチャーを交えて会話するため、両手の自由が利かなくなると話ができなくなるからなのです。コミュニケーションには、ことば以外に表情、イントネーション、動作など大切な要素がたくさんあります。文法の基礎をしっかりと学ぶことと同じくらいに、**恥ずかしがらないで学んだことをどんどん使ってみる心意気**が大切です。使っているうちに知らず知らず理解できなかった文法も習得できるはずですよ。さあ、一緒にイタリア語を学んでみましょう！

Buono studio!